

こどもと自然がつながった！

めがねのくつつきむし

館野



足や胸に”ヌスビトハギ”をくつつけて歩いていると興味をもってくれた年中組の子が声をかけてきました。「それなあに?」「くつつきむしだよ。くつつきムシといっても、虫じゃないよ、花が咲いた後にできるタネだよ」「眼鏡みたい、“めがねのくつつきむしだね”」。明德幼稚園には、このように子どもたちが遊びの中で名前をつけてくれた植物が他にもいます。自然が身近にあるからこそそのやり取りがステキですね。

はっぱおばけだぞ！

須藤



散歩に行くと、子どもたちの顔より大きな葉っぱを見つけました。最初は傘にしてみたり、箒にしてみたりして遊んだあと、保育者が葉っぱに小さな穴を二つあけ、「葉っぱおばけだぞ～」と登場しました。「わー！」と逃げる子や「やって！」と葉っぱおばけになりたい子がいました。葉っぱおばけになりきると、まてまて遊びの始まりです。この日はいっぱい身体を動かしました。

どんぐり コロコロ

米村



くるみ組さんが散歩からお土産で拾ってきた、どんぐりが山の園庭にいくつも落ちています。

始めは拾ってバケツやカップに入れ満足していた、どんぐり組の子ども達でしたが、木の台で坂を作り、その坂に保育者がどんぐりを置くとコロコロと転がる様子を見て「やってみたい！」と興味津々。どんぐりを探すことから始まりました。みつけた子ども達は坂までやってきて転がしながら楽しみ、時折「どんぐりころころ♪～」とかわいい歌声も聞こえてきました。

はじめましてカラスウリ

藤原



山の園舎にある古墳から覗いてみると、いろいろな葉っぱがあります。その中でも、子どもたちはオレンジ色の物に興味津々！「あっ！かぼちゃあるよー」と言っている子がいたので、取ってみることにしました。触ったり、匂いをかんでみたり、すると、「ぶによぶによする」「まつぼっくりの匂だね」と発見がたくさんあり、楽しみました。

落ち葉遊び！

濱谷



この時期になるとたくさんの葉っぱが落ちています。私が落ち葉を持ち上げ手を離すと上から落ちてくる葉っぱを見て、嬉しそうにしていました。そこから、ジャンプをしたり、寝っ転がったりと表現が変わっていききました。寝っ転がったまま落ち葉の布団をかけ気持ちよさそうに眠りにつく子どもたちもいました。また、落ち葉を雪に見立ててアナ雪ごっこが始まり、落ち葉遊びでこんなにも楽しめるなんて素敵だと感じました。

みてみて！

河野



石や木の枝で円を書くと、子どもたちが集まってきて葉やどんぐりで顔を作り「寝てるみたい！」や私が作った顔を見て「変な顔〜！」と笑いながら個性のある顔がこの日は何個も出来上がりました。別日にまた円を書き始め、顔を考えながら作っている様子を見てみると、木の枝を拾い、大きな木に自分の身体が隠れないようにその枝の影を顔に合わせ、髪の毛を一生懸命に表現していました。とても個性豊かな遊びの場面でした☆

拾って集めて！

鈴木



子どもたちは、集めたり拾ったりするのが大好き。そこで、戸外遊びから帰ってきた子どもたちは、どのようなものを持ってくるのかを検証してみました。最初は「葉っぱ」と「葉っぱではないもの」の区切りにしてみました。落ち葉が沢山ある季節なので葉っぱが多く、他にも石や木の枝、どんぐりを持ってきていました。今後は、形や色などで区切ってみようと思います。

どんぐり研究

藍



子どもたちは秋の自然物に興味津々！黄色い落ち葉を集めたり、大きさの違うどんぐりを集めたりと子どもによってさまざまです。どんぐり集めをしている子が見せてくれました。「見てこのどんぐりにはゾウムシが2匹入っていたよ！」と嬉しそう。「やわらかいどんぐりにいるんだよ！」と教えてくれました。子どもたちの着目するところにはいつも驚かされます。子どもたちの小さな発見も大切にしていきたいです。

こどもと自然がつながった!

表示で伝える工夫

館野



明德幼稚園の様々な自然環境。大人も子どもも通リ過ぎてしまいがちな場所や事象について、表示を作って掲示することで「どうしてこうなっているのか」「何でそこにあるのか」など“こどもと自然がつながるような工夫”をしています。表示を見て子どもたちは「そうなんだね」「なんでだろう?」と友達同士で話したり教え合ったりしています。

四季折々の表示を保護者の方も探してみてください。

「おにくやいたよ」

須藤



戸外遊びで遊んでいると、「おにくです!」とお皿に木の欠片をいれて持ってきてくれました。「おいしそうだね!」と保育者が食べていると、お肉を食べたい子がやってきました。網があったのでビールケースにのせると子どもたちがどんどん木の欠片と葉っぱを持ってきて網の上にのせ始めました。お家で焼肉をした子もいるようで、木の棒で「つつん」とお肉の様子をみているかのようでした。焼けたお肉はみんな「ぱくぱく」食べました。

遊びに変身♪ 落ち葉掃除大作戦!

米村



園庭の落ち葉掃除に興味津々な子どもたち。「やりたい!」と初めは手で落ち葉を掴んでいましたが何度も繰り返すうちに「もっとたくさん運びたい!」という気持ちが芽生えます。保育者が「何かに入れて運ぶといいかもね。」と声を掛けると、子どもたちは砂場のお皿やカップを持って集め始めますが、すぐに【もっと大きな入れ物ならたくさん運べる】ことに気づきバケツ作戦へ変更!子どもたちの頑張りで園庭はキレイに。掃除が終わった後も「まだある!」と落ち葉をみつけては保育者のもとへ持ってくる几帳面な子どもたち。掃除も楽しい遊びへと変化しました。

ごっこ遊び

藤原



風が強い日にダンボールで風よけをしたことがきっかけとなり、遊びが始まりました。普段の遊びにダンボール一つあることでこんなにも普段と違った異空間になり、みんな「ここは焼肉屋さんにしよう。」と木の皮を肉にみたてたものを焼いたり、ドリンクバーをつくったりとそれぞれが楽しんでいます。そこから遊びが広がり、ゴザを持って来たり、ダンボールに絵を描いたりしながら園庭での遊びを楽しんでいます。子どもの発想力はすばらしいです。

想像力が豊かな子どもたち

濱谷



自然物を使って見立て遊びが好きな子どもたち!「寒いからたき火をしたい」と言う声から園庭にある物を集めていましたが…いつの間にか料理作りが始まりました。同じ草や葉っぱでも子どもたちのイメージが違ってとても面白いです。「マッチに見えるね」「これはハウレンソウ!」と思いを共有していて出来上がった料理は子どもたちにとって特別なようです。一人ひとりの感性を大切に今後もかかわっていききたいと思います。

戸外と室内遊びのつながり★

河野



松の森や園庭で拾ったたくさんのどんぐりたち。子どもたちはどんぐりの種類で分けたり、名称を覚えたり、いろいろなことを遊びから取り入れている姿がみられます。お部屋のかごには集めたどんぐりで溢れています。学年で「虹の向こうに」を歌ったことから「虹を作ってみようよ!」と子どもの声から、絵の具・ボンドを塗って、楽しみながらどんぐりを並べていました!

集めて並べてみると??

鈴木



前回の園だよりでは【子どもたちが集めてきたもの】を掲載しましたが、今回は集めてきたものを色分けしてみました。自分たちで「茶色だよ!」「この葉っぱは緑!」など、みんなで話し合ってテーブルの上に並べてみたら、茶色がたくさんあるということに気が付きました。【色分けしてみよう】という目的が【何で茶色がが多いの?】という疑問に変わり、子どもたちなりに理由を話し、自然研究者たちがいっぱいいました。

松の森で試行錯誤・・・

藍



松の森では斜面の登り降りを楽しんでいます。子どもたちは「特訓だ!10 回登るぞ!」と気合を入れて走り出します。くり返し取り組んでいく中で尻を使って滑る姿もみられ、子どもたちでどのようにしたら葉っぱスライダーになるのかその場で話し合いが始まりました。段ボールを使ったり、どんぐりを転がしたりと子どもたちで試行錯誤しながら自然の中で遊んでいます。子どもたちの想像は面白く、保育者もやってみよう!と思える考えがあります。そのような子どもたちの発想や想像を大切にしながら自然とかかわっていききたいです。

こどもと自然がつながった！

ハートの形、見つけた！

舘野



(声をかけてほしくて待っていた所に)「なにしてるの〜？」と声をかけてきてくれた2歳児の女の子たち。「ハートの形を探しているんだよ」と伝え、自然と“一緒に”が始まります。“同じこと”を“同じ場所”で“一緒に”する楽しさを共有しながら、身近にあるハート探しが始まりました。自然界にはハートの形がたくさんあります。みなさんも身近なところでハートの形♡を探してみてくださいね。

「ダンゴムシみつけたよ！」

鈴木



入園し2ヶ月が経ち、毎日、明德幼稚園の園庭で思いきり遊ぶ年少の子どもたち。地面をよく見て探しているのは、ダンゴムシ。一人で探していた姿から少しずつ、友達と一緒に探すようになってきました。「ここにいるよ！」「タイヤの下を見ようよ」と会話が飛び交っています。たくさん見つけては友達に紹介したり、保育者に見せたりしています。自然を通して子どもたちの発見を大切にしていきたいです。

枝豆ってどうなるの？

石原



季節の野菜を育ててみようとして夏に食べられる枝豆を育てることにしました。「みて！芽が出てきたよ」「葉っぱが出てきた」と毎日子どもたちが水やりをしながら生育を楽しみにしています。テントウムシやバッタも子どもたちの仲間入りをして作物の様子を楽しみにしています。

あおむしさんを助けたい！

米村



背中に蟻が登っている、あおむしが、もぞもぞと苦しうに動いていることに気づいた子どもたち。それを見て「あおむしさんを助けよう」と葉っぱに寄せ移動させることを思いつきました。「助けてあげるからね！」と別の場所へ少しずつ移動させ救うことに成功！最後に「あおむしさん、葉っぱ好きだから葉っぱのお布団あげるね」と頑張ったあおむしさんにプレゼント。園庭で出会う生き物に触れ、様々な感情が育っています。

子どもの見つけたを形に！

藍



毎日自然いっぱいの園庭で遊んでいる子どもたち。シロツメクサやタンポポ、落ち葉などを取って見せてくれます。「見て！きれいでしょ」「持って帰ってもいい？」と宝物のようにしている姿を見て、集めた宝物を詰め込んだフレームを作りました。ただ集めるのではなく自分だけの素敵なフレーム作りを楽しんでいました。

「タンポポきれいだね！」

濱谷



毎日園庭に咲いている春の草花を見て、喜んでいる子どもたち。そこでアルミホイルで包んだお皿を用意してたんぽぽを浮かせてみると、太陽の光でキラキラ輝いていました。「きれいだね！たんぽぽも気持ちよさそうだね」と笑顔になる姿が見られました。違ったたんぽぽの様子を見た時の子どもたちの感性に驚きました。たんぽぽだけではなく、園庭に咲いている花を持ってきて浮かせて嬉しそうにしていました。

「みーつけた！」

須藤



暖かい日が増え、園庭にアリやミミズ、ダンゴムシなど、いろいろな虫がでてくるようになってきました。保育者がお皿にダンゴムシを入れてみると「うわぁ！」と興味津々！ツンツンと触ってみたり、手の平に乗せてみたりと子どもたちの反応が違うのが面白いです。これから出会う子どもたちの「発見」の瞬間を大切に見守っていきます。

「みて！あったよ！」

山縣



「先生！みて！あったよ！」と元気に教えてくれた子どもがいました。年少遊具前のプラタナスの木に掲示された写真にある木に食い込んでいるレンガをみつけたみたいです。写真に写っているものと同じものをみつけ、とても嬉しそうにしていました。自然の中の不思議なものをみつけ、ワクワクする気持ちと、「なんでだろう」という気持ちが子どもたちの感性を育てていると感じる場面でした。